

27Q-am08S

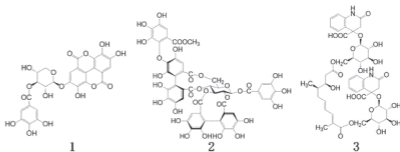
クルミ特徴成分の解析と生理活性

○山田 梨愛¹, 半田 洋士², 中村 昌文², 好村 守生¹, 伊東 秀之³, 天倉 吉章¹ (¹松山大薬, ²日吉, ³岡山県大保健福祉)

【目的】先に我々は、食材を疾病予防に応用するための食品薬学的研究の一環として、免疫調節や消化器系のがん予防等への関与が明らかにされている核内受容体 aryl hydrocarbon receptor (AhR) に寄与する活性食材としてクルミを見出し、約 20 種の含有成分を明らかにし、それらの活性について報告した¹⁾。今回、さらに活性成分の探索を目的に成分精査を実施した。

【方法】クルミ可食部の 80%メタノールエキスについて、Diaion HP-20 カラムクロマトグラフィーによる分画を行い、各種カラムクロマトグラフィーによる分離精製を繰り返し、得られた化合物について構造解析を行った。活性は AhR 活性に加え、抗糖化活性についても評価した。

【結果・考察】さらなる成分精査の結果、文献未記載の化合物 **1**~**3** を含む 11 種の化合物を新たに単離した。既知化合物では、glansreginic acid 等をクルミからはじめて単離した。新規化合物 **1** は ellagic acid 4-*O*-(3'-*O*-galloyl)- β -D-xylopyranoside, **2** は platycaryanin A methyl ester, **3** は glansreginin C と命名し、各種スペクトルデータ及び分解反応等の結果に基づき、構造決定した。また、各化合物について活性評価を行ったので、その結果についても併せて報告する。



1) 山田ら, 日本薬学会第 136 年会 (横浜)